

利根町ゆかりの偉人

やなぎたくにお 柳田國男



50 歳ごろの柳田國男

今年で生誕 150 周年となる柳田國男。利根町は、「柳田國男第二の故郷」と呼ばれていますが、どのような関わりがあったのでしょうか。今回のシリーズまち・ひと・しごとは、「日本民俗学の父」と呼ばれる柳田國男についてご紹介し

柳田國男ってどんな人？

柳田國男は、明治 8 年に、現在の兵庫県神崎郡福崎町で、松岡家の六男として生まれ、幼いころから地域文化への強い関心と非凡な記憶力を持っていたとされ、わずか 10 歳で高等小学校を卒業、11 歳の時に預けられた三木家では、その膨大な蔵書を読破したといわれています。

東京帝国大学で法学を学んだのち、農商務省や内務省で官僚として働きなが

土蔵や母屋が残る

柳田國男記念公苑

「柳田國男記念公苑」は、國男が少年時代を過ごした旧小川邸を再現した施設です。

敷地内には、母屋と土蔵、そして美しい日本庭園があり、母屋は、町民交流のために開放され、茶道や琴のサークル活動などで利用されているほか、スポーツ少年団の合宿などで宿泊することもできます。

母屋の奥には、國男少年が本を読み漁った土蔵が当時のまま残されており、現在は資料館となっています。館内には、柳田國男に関する著作物や文書など、貴重な資料が多数展示されており、彼の功績を辿ることができます。また、土蔵の隣には、國男少年が神秘体験をしたという祠もそのまま残っています。



柳田國男記念公苑の母屋と庭



土蔵の中につくられた資料館展示室



柳田國男に関する貴重な資料

ら、日本各地に伝わる昔話や伝承、村人の生活などを記録し続けました。

明治 43 年に出版された代表作「遠野物語」は、岩手県遠野地方にまつわる逸話や伝承などの不思議な説話をまとめたもので、文学作品としても高い評価を受けています。

その後も、雑誌「郷土研究」の発行や各地の研究者と交流し、「民俗学」という学問を日本に広めていきました。

利根町で過ごした 3 年間

國男は 12 歳の時、布川村（現在の利根町布川）にある小川家の敷地内の離れで医院を開業していた兄の鼎（かみね）に呼ばれ、3 年間を利根町で過ごしています。後に國男は、この布川時代のことを思い出して、「素っ裸で棒切れをもつてそこら中を飛び回り」、「帰って来るとやたらに本を読んでいた」と回顧しており、布川での生活が、さまざまな知見や知識、発想力を得る大きなきっかけとなりました。

また、徳満寺の地藏堂に掛けてあった「間引き絵馬」を見て、「子供心に理解し、寒いような心になった」と述べており、



小川家祠で神秘体験をした「不思議な玉」

小川家には屋敷の奥に屋敷神を祀った祠がありました。祠には小さな石の扉がはまっており、気になった國男が、誰もいない時を見計らい恐る恐る開けてみました。予想もしていなかった綺麗な蛸（うさぎ）の玉が収まっており、驚いた國男は、興奮のあまり気が遠くなってしまいました。良く晴れた青い空を見上げると、昼間にも関わらず数十の星が見えました。その時突然、ピーっとヒョドリが鳴き我に返った。というエピソードがあります。

現在この玉の現物は歴史民俗資料館で見ることができるほか、レプリカが記念公苑の土蔵に展示されています。

あの芥川龍之介も読んだ!! 柳田國男の代表作「遠野物語」

「遠野物語」は、岩手県遠野地方に伝わる天狗や河童、神隠しなどの不思議な話や怪談話が 119 話収録されている説話集です。その独特の世界観は、発表当時から文学者たちにも大きな影響を与え、島崎藤村や泉鏡花なども愛読したと伝えられています。なかでも芥川龍之介は、親友の手紙で「此頃、柳田國男氏の遠野物語と云ふをよみ大へ面白く感じ候」と書くほどでした。興味のある方は、利根町図書館に「柳田國男と民俗コーナー」が設置されていますので、ぜひ読んでみてください。

この時の経験が、飢饉（ききん）の絶滅のために、農商務省に入省する動機となりました。多感な少年期を町で過ごしたことが、後に「日本民俗学の父」と呼ばれることとなる國男の将来に大きな影響を与えたことから、利根町は「柳田國男第二の故郷」と呼ばれているのです。

柳田國男略年表

明治 8 年	7 月 31 日誕生
18 年	三木家に預けられる
20 年	布川に移住
21 年	小川家土蔵で濫読
22 年	両親、二弟布川へ
23 年	上京、森鴎外を知る
25 年	田山花袋を知る
26 年	第一高校入学
27 年	岡田武松と筑波登山
29 年	両親死去
30 年	東京帝大入学
31 年	夏、伊良湖崎滞在
33 年	農商務省勤務
34 年	柳田家に入籍
42 年	『後狩詞記』出版
43 年	『遠野物語』出版
	郷土研究会創立
大正 2 年	『郷土研究』創刊
9 年	退官、『海南小記』
10 年	民間伝承の会を創設
	（後に日本民俗学会と改称）
昭和 13 年	『利根川図志』復刻
22 年	民俗学研究所設立
26 年	第 10 回文化勲章受賞
34 年	『故郷七十年』出版
36 年	『海上の道』出版
37 年	8 月 8 日死去

柳田國男記念公苑

● 利用時間

一般見学：午前 9 時～午後 4 時 30 分
会議・講座等：午前 9 時～午後 9 時
宿泊：午後 3 時～翌日午前 8 時 30 分

● 休苑日

毎週月曜日、祝祭日、年末年始

● 使用料

見学者：無料
集会室利用：530 円～
※集会施設の使用者は、町内または龍ヶ崎市に居住する方で、社会教育または町の事業に関わる方に限ります。なお、個人でのご利用はできません。

● 問い合わせ

利根町生涯学習センター
〒300-1615 利根町大字中谷 967
TEL:68-3263

写真提供 「成城大学民俗学研究所」（表紙、50 歳ごろの柳田國男）
「個人蔵」（少年時代の柳田國男）

参加費無料

柳田國男生誕150年記念
特別講演と國男少年が
暮らした利根町散策

2025
11/29
SAT

講演会

9:15 受付開始
9:30 開会
9:45 民謡紙芝居「大平さまの矢」（利根中学校美術部）
9:55 特別講演
「利根川流域の民俗
—女たちの祈りとかたち—」
國學院大学文学部教授
服部 比呂美 先生
11:25 中絶め
会場 利根町役場 1 階多目的ホール
茨城県北相馬郡利根町布川841-1

国男少年の足跡をたどる
(役場から記念公苑へ徒歩移動・雨沢あり)
11:40～12:20予定 (徒歩・約1.3km)
倉見蔵神社 ⇨ 徳満寺 ⇨ 柳田國男記念公苑
定員 40名 定員になり次第締め切ります
申込先 利根町生涯学習センター
〒300-1615 茨城県北相馬郡利根町中谷967
TEL 0297-68-3263 FAX 0297-68-2540
mail: syoucen@town.tone.lg.jp
申込方法 ①住所 ②氏名 ③連絡しやすい電話番号をお書きになり、郵送・FAX・mail又は御持参のいずれかの方法で「利根町生涯学習センター」までご連絡ください
※団体の場合は 代表者の①住所 ②氏名 ③連絡しやすい電話番号 ④参加人数をお書きください
申込締切 11月20日木

午後の部 柳田國男記念公苑
生花・茶道・琴 中学生の紙芝居コーナー
柳田國男記念公苑 資料館自由見学（解説有）
15:00 記念行事閉会

キッチンカーも
来よう！
記念公苑と役場間でシャトルバスを
運行します（11:00～15:30）

利根町生涯学習センター

〒300-1615 茨城県北相馬郡利根町中谷967
TEL0297-68-3263 FAX0297-68-2540
mail: syoucen@town.tone.lg.jp
※車、自転車等で越しの方は、役場駐車場・駐輪場をご利用ください。 記念公苑内の駐車場は利用できません。

柳田國男生誕 150 周年を記念し、國男少年の利根町での暮らしや足跡をたどる記念行事が行われます。皆さまのご参加お待ちしております

5

令和 7 年 11 月 (No.740)

令和 7 年 11 月 (No.740)

4